

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

① 子供のためにいいことだといわれると、親たちはすぐにとびつく。全部がそうだといわないが、かなりの親がそうだ。そして、自分の子供にもしてやろうと思う。A、子供にいいといわれることは、すぐ流行する。越境入学、塾通い、早期教育、なんでも流行してきた。

② こうした子供のためを考える親たちに、質問したい。他人の子供にいいことは、自分の子供にもいいことに決まっているのだろうか。B、医者**の**ぼくのところ**に**患者**が**来る。その時、ぼくが代表一人だけを診察し「この人**に**いくすりはこれ。みなも同じ人間だから、この人**に**いいものは、みないはず。同じくすりをみなものめ」といつて残りの人を追い返したら、ひどすぎると非難しないだろうか。C、子供**に**関しては、親はそれと同じようなことを平気でやってしまう。D、いい親**（**でありたい**と**思うもの**）**ほど、この傾向は強い。

③ なにかしてやりたい、なにかしてやりたいという気持が強いのが、かえってあだになっているのである。自分の子供を見ずに、ほかの親が子供にやってやっていることを見て、自分のしてやりたい気持をそれに結びつける。そう、あれをしてやろうと思う。子供が①それを欲しているか、必要としているか、を考えようもしない。栄養不足の子供に栄養の高い食物はいいが、肥満児には好ましいものではない。②教育**と**いった、より抽象的な面でも、それと同じようなことがいえるのだ。

④ そもそも、病気にいくすりだといっても、くすりは多ければ多いほどいいというもの

ではない。日本の高校教育は、どちらかといえばカリキュラム過重で、くすりづけに似た状態にあった。最近になって、それに対する反省が少し現われてきたようだが、③親もこのあたりで、子供に過重にやってやってきたことを、反省してみたらどうなのだろう。

⑤なにもやってやらなかったが、子供はうまく育ってしまった。特別なことはなにもしなかったが、④それで充分じゅうぶんだった。これでは、なにかしてやりたいと思っていた善意のかたまりの親は、拍子ぬけひょうしだろう。だがそれで充分、親の責任は果しているのである。親が本当に子供の役に立てるのは、子供が危機に立つ時だ。いわば火事の時の消防署のようなものだ。役に立ちたいからと、消防が火をつけてまわるのは困る。燃えない先の予防だと、火事の起こらぬ前にやたらと水をかけられても困る。火事がないことが、E 消防は休業していることが、しあわせなことなのだ。親も、⑤消防ぐらいの気持で子供と接するの
がいい。

⑥どうしてこんなことをいうかといえば、最近、ぼくが相談を受けた例のほとんどが、親のFのために、かえって子供のGがそこなわれた場合だったからである。たとえば、親は子供から相談を受けると、なにか気のきいた一言をいってやろうと身がまえる。子供の人生を変えるような、心にいつまでも残るような言葉をいつてやりたい。

⑦だが、子供にとっては、いい聞き手がいればそれで充分なのだ。他人から聞くすばらしい言葉より、自分がしゃべりながら、ふと口にした平凡へいほんな真実の方が、心に強く印象づけられて残るのである。それに、いい言葉をいえる人間は、そんなに多くはない。誰だれでもやれることではない。その方が地味だが、親なんて、地味に演ずべき役割。主役の子供を押しのけて、自分が目立とうとしてはいけないのである。

⑧ 子供がなにかを人生でしとげた時も「こんな、だめな親をもったにしては、立派なことができた」と子供にすべての功こうを譲ゆずる方が、前面にしゃしゃり出て「わたしの教育法がよかったからだ」と自慢じまんげに語るより、奥ゆかしいではないか。今、親はなにもせずに、子供をはらはらしながら見まもることを、学びなおすべきではないかと思う。

（なだいなだ『三言でいえば』角川文庫）

問一 空らん A 〽 E に入る接続語としてふさわしいものを、それぞれ次の記号から選びなさい。

ア たとえば イ つまりは ウ しかも エ しかし オ だから

問二 ぼう線部①「それ」の指している部分を、文中から十八字で探し、初めと終わりの三字をそれぞれぬき出さない。

問三 ぼう線部②「教育といった、より抽象ちゆうしやうてき的な面でも、それと同じようなことがいえるのだ」とありますが、どのようなことがいえるのですか。「勉強の得意な子」「勉強の苦手な子」という言葉を使つて説明しなさい。

問四 ぼう線部③で、筆者が提案している内容と同じ内容の部分を文中から一文で探し、初めと終わりの三字をそれぞれぬき出さない。

問五 ぼう線部④「それで充分」とありますが、「それ」の内容を明らかにして、「それで」を二十字以内で書き直しなさい。

問六 ぼう線部⑤「消防ぐらいの気持ち」とありますが、どのような気持ちですか。説明しなさい。

問七 空らん F・G に入る語としてふさわしいものを、それぞれ次の記号から一つ選びなさい。

ア 消極性

イ 積極性

ウ 創造性

エ 協調性

オ 自主性

問八 この文章からは次の一文が抜けています。7、8の段落からこの一文が入る直前の七字を抜き出しなさい。(句読点を含みます)。
・しかし、いい聞き手なら、誰でも訓練次第でなることができる。

問九 筆者がたとえを用いて説明している段落すべてを段落番号で答えなさい。

問十 この文章で、筆者は親のどんな態度を批判しているのですか。ふさわしいものを次の記号から一つ選びなさい。

ア 子供の個性を考えずに、周囲がやっていることをそのまま子供にも強制する態度。

イ 子供に対してなにかしてやりたかったのに、特別なことはなにもしてあげられなかったと反省する態度。

ウ 子供が欲していることを事前に察知して、あれこれ手を回し、世話をしている態度。

エ 子供の心に強く印象づけられるような言葉を使うのではなく、いい聞き手になってあげる態度。

【問題は次のページに続きます。】

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

① 二人の幽霊は、窓から差し込む月の明かりに照らしだされて、透き通って見えた。

「ねえ、ダダとエラソーニは、もうすぐ僕には見えなくなるの？ キキが言ったように大人になったら見えなくなってしまうの？」

アルは勇気を振り絞って訊いてみた。二人の幽霊はお互いの顔を見合って肩を窄める。「それは、② 君次第だよ」

そう言ったのはダダ・ジョナサンだった。

「そう、君が見えなくなっても構わないと心の片隅で思ってしまったえば、その瞬間から私たちは見えなくなる」

そう言ったのはアントニオ・エラソーニだった。

アルは首を強く左右に振った。

「僕は嫌だよ、二人とはずっと友達でいたい。大人になっても、ずっと僕の傍にいてほしいんだ」

アルが珍しく駄々をこねたので、二人は笑った。

「人間は③ 現実の世界でしか生きていけない動物なのさ。子供の頃のことは皆大人になると忘れてしまうんだ。どんどんそういう純粋な記憶は薄れていってしまうものさ」

とダダ・ジョナサン。

「一番最初の記憶をアルは覚えているかい？」

今度はアントニオ・エラソーニが聞いてくる。

「一番最初の記憶？」

アルが不思議そうに言うと、二人はにこつと笑った。

「そうだ、一番最初の記憶だ。今現在のアルが覚えている一番最初の記憶を言ってみたまえ」

ダダがそう言うので、アルは必死で考えてみた。父親と旅した街で立ち寄った幾つかのピアノバーのことを思い出したが、それよりも前の記憶があるはずだった。旅に出た最初の日のことを思い出したが、それよりも前の記憶があるはずだった。アルが生まれた街のアパートのことを思い出そうとしたが、それよりも前の記憶があるはずだった。どんどん記憶を遡さかのぼっていったが、なかなか最初の記憶には辿たどりつけなかった。

「どうした？　思い出せないのかね」

エラソーニが顔を覗のぞき込んで言う。

「うん、なんかぼんやりしていて、どれが一番最初の記憶なのか分からないんだ」

二人が突然笑いだす。

「まだ、それっぽっちしか生きていないくせに、もう忘れてしまったのかね」

アルは笑われて悔くやしかった。

「どうして、思い出せないんだと思う？」

ダダが今度は聞いてくる。

「どうして？」

「それはな、つまり現実には振り回されているからじゃ」

エラソーニが、偉えらそうにそう言った。

「さよう、人間は現実に生きる動物なのだ。アルがどんどん現実に生きていくにしたがつて、私たちの身体は次第にお前にも見えなくなってしまう」

ダダが少し悲しそうに言った。

アルは目をぱちくりさせた。

「アルのような子供でさえ、一番最初の記憶が薄れているんだ。アルの父親のような大人たちの記憶はもっと薄れてしまっているだろうよ。大人になるということはそういうことだ」

「さよう、寂しい動物なのさ、人間は。いずれ、アルだって、私たちのことを忘れてしまう。アルが一番最初の記憶をすでに思い出せないようにね。これはある意味で仕方ないことだ。そうじゃないと人間は過去に支配されて、未来を求めなくなってしまうからな」

アルは急に悲しくなつて声を上げて抗議した。

「僕は嫌だ。二人のことを忘れるなんてそんなこと嫌だ。ねえ、ダダ。ねえ、エラソーニ。人間はどうしてもそうなってしまうの。一番最初の記憶を持ち続けた人間はいないの」

二人の幽霊は、お互いの顔を見合い、さあ、困ったぞ、という顔をした。

「さつきも言ったように、それはお前次第だ」

そう言ったのはダダ・ジョナサンだった。

「さよう、感動したことを絶対忘れないように生きていくなら、もしかしたら、私たちは見え続けるかもしれない」

そう言ったのはアントニオ・エラソーニだった。

「時間や、システムや、社会の愚かな流れに、振り回されるような人生を選んだ瞬間から、お前は私たちを見ることが出来なくなる。しかし、まあ、それも決して悪いことではないんだよ。振り回されて生きることとまた一方では真実だ」

ダダが言った。

「さよう、悪いことではない。悪いと決めつけることも悪い。お前は好きな方を選べばよい。誰も強制はしないよ。④サンタクロースは存在する、と信じ続けている大人だっているんだ。ほとんどの人間がそれは作り話だと思っているこの世の中でね」

エラソーニが言った。アルは驚いた。

「本当？」

二人は笑う。

「数百万人に一人くらいだけだね」

彼らの笑い声はいつまでも室内に響いていた。A 笑い声だった。そしてアルはその豊かな響きに包まれたまま、いつのまにか眠りについてしまった。

(辻仁成『ミラクル』新潮文庫)

【問題は次のページに続きます。】

問一 ぼう線部①「二人の幽霊」は、アルにとってどのような存在なのか。ふさわしいものを次の記号から一つ選びなさい。

ア 厳しいことばかりを言う存在。

イ 現実の世界から目をそむけるための存在。

ウ 理想の大人像を押し付けてくる存在。

エ 自分の知らないことを教えてくれる存在。

問二 ぼう線部②「君次第」とありますが、二人が見えなくならない可能性を残す方法を、「くこと。」につながるように文中から二十一字で探し、初めの五字をぬき出しなさい。

問三 ぼう線部③「現実の世界」とありますが、

I 「現実の世界」とはどのような世界かを説明した次の文の空らんにあてはまる言葉を文中から十八字でぬき出しなさい。

() に振り回される世界。

II 「現実」に振り回されて生きることエラソーニもダダも否定しないのはなぜですか。「過去」「未来」という言葉を使って答えなさい。

問四 ぼう線部④「サンタクロースは存在する、と信じ続けている大人」とありますが、

同じような意味の例としてふさわしいものを次の記号から一つ選びなさい。

ア エコのことを考えて昔もらったプレゼントを今でも大切にしている大人。

イ 幼少期に初めて食べたケーキのおいしさを忘れずにいる大人。

ウ 小学生の時から誤った書き順でひらがなを書く大人。

エ 学生時代の失敗を反省して努力し続けている大人。

問五 空らんAにあてはまる言葉としてふさわしいものを、次の記号から一つ選びなさい。

ア 寂しい イ 複雑な ウ 温かい エ 恐ろしげな オ おおげさな

問六 この文章で、作者が描こうとしている中心にあるものは何ですか。ふさわしいものを次の記号から一つ選びなさい。

ア 子供の心を失って生きることのむなしさ。

イ 子供の純粋な心を持ち続けることの難しさと尊さ。

ウ 幽霊のような非科学的な存在を信じる子供の無邪気さ。

エ 子供が持つ無邪気な疑問に答えることの大切さ。

【問題は次のページに続きます。】

【三】次のぼう線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ①病気の母の看護をしている。
- ②問題解決のための討議を重ねる。
- ③的の中心をねらって矢を射る。
- ④車窓から美しい海が見えた。
- ⑤家臣が主君に忠誠をちかう。
- ⑥おこづかいを銀行に預金する。
- ⑦周囲の批判を受けて考え直す。
- ⑧二十年間の人口の推移を調べる。
- ⑨先祖の墓前に花を供えた。
- ⑩穀物の豊作を祝う祭りが行われる。

【四】次のぼう線部のカタカナの言葉を漢字に直しなさい。

- ①文化祭の後片づけをスませる。
- ②ユウビン局ではがきを買った。
- ③兄は銀行にシュウシヨクした。
- ④落石で道路がスندانされた。
- ⑤各セイトウの主張を比べる。
- ⑥事前にメンミツな計画を立てた。
- ⑦湖をハイケイにして写真をとった。
- ⑧フショウした選手が退場する。
- ⑨東京駅までのウンチンを調べる。
- ⑩世界イサンに登録された城を見学する。

【問題は以上です。】

解答用紙

氏	名

[illegible][illegible]

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

⑥	① (ませる)
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤